

“仙人”のように暮らし、アートで美都を発信―

画家・ヒノキヲクロウ（檜尾拓郎）さん

深い山に抱かれた美都町山本地区に移住した画家のヒノキヲクロウ（檜尾拓郎）さん（46）。令和7年夏には、自身が暮らす大神楽自治会おおかぐらの住民の理解と協力を得て、初のフェスティバルを開催しました。戸数も人口も減少する中、「フェスティバルに関わることで、観客やパフォーマーの方達とも交流することもでき、大変貴重で有意義な経験をさせてもらいました」と、ヒノキヲさんの移住を住民も喜んでいきます。山里の小さな自治会から、静かに、けれど確かに、新しい風が生まれています。



導かれて、美都へ

岡山県出身のヒノキヲさんは、東京で20年、ニューヨークで4年間を過ごしたのち、令和5年4月、益田市内に暮らす知人との縁で、美都町山本地区へ移住しました。

人里離れた古民家で、仙人のように暮らしたい――。そう思い描いていた理想の生活が、この地で実現しました。紹介された空き家は山の上の一軒家。眼下に広がる景色と空の広さに一目惚れしました。居宅を「ぬもぬも美術館」と名づけ、アトリ工兼展示室として活用しています。

地域の理解と協力を得てフェスを初開催

もともと「好きなアーティスト（芸術家）を招いてフェス（フェスティバル）をしたい」という夢を抱いていました。大きなフェスには地域の協力が不可欠と考え、令和6年冬に自治会へ提案。住民の理解と協力を得て、地域とアーティストが協働する初の「ぬもぬもフェスティバル」実現にこぎつけたのでした。



ライブペイントの様子。無心になって手を動かすヒノキヲさん＝大神楽集会所

羽織をまとい、狐のお面をつけたヒノキヲさん。大神楽集会所で行われたライブペイントを静かに見守る観客たち。最初は何が描かれていくのか見当もつきませんでしたが、真っ白な紙いっばいに雄々しい龍の絵が完成すると、会場には、どよめきと、後に感動の声が響きわたりました。

「観客を前に即興で行うライブペイントでは、描きたいものが『降りてくる』とヒノキヲさん。まるで狐にとりつかれたように手が動くことから、手製の狐面をつけて描くスタイルが生まれました。

草刈りや作品展示、駐車場整理、おもてなしなど、住民が一丸となって支えた『手づくり』のフェス。「実現まで5年しかかかると思っていたけれど、移住後2年で叶いました。益田は、不思議と『思いが形になる場所』です」とヒノキヲさんは話します。



「ぬもぬもフェスティバル」の会場（大神楽集会所）には、住民の作品も多く展示されました

自治会の人たちは、ヒノキヲさんの挑戦を応援し、他の地域から訪れた人々と共に、心からフェスを楽しみました。「ヒノキヲさんの友人たちから、『美都の自然が好き、石見神楽が好き、その他にも魅力が美都にはある・・・』という話を聞くにつけ、その価値に気づいてないのはいかに住んでいる我々かなとも思いました」「素晴らしい交流ができるフェスティバルが継続できれば良いと願っています」とロクに話し、地域では次回開催への期待も高まっています。

「楽しい場所に人は集まります。自分の存在や活動が、美都の魅力を知ってもらうきっかけになれば」と語るヒノキヲさんの表情は、穏やかで満ち足りていました。

ぬもぬも美術館へようこそ

「普段は仕事のため、年に数回の交流会に足を運んでほしいです」とヒノキヲさん。

イベント情報は SNS

Facebook : ヒノキヲ タクロウ

Instagram : pinokio_takurohinokio

で発信しています。



ヒノキヲさんがライブペイントで描いた龍

にもでかけたい」。その言葉には、地域とともに歩むアーティストの姿勢がにじんでいました。

都町内の催し
かかれ、美
動を続けてい
きた。声が
観客と直接つ
ながる表現活
や似顔絵など、
ライブペイント
を活かし、ラ
の合間や休日
からは、仕事
のものは人生
時間は人生そ
の中で、創作に費やす時間が減っていましたが、

日常の中に、創作の時間を

移住からもうすべ3年。「日々の慌ただしさの



東仙道地区



東仙道保育所の新たな歩みがスタート //

東仙道保育所で保育所レストランが令和6年4月にスタートし、一年半余り経過しました。地域の旬の食材をメニューに取り入れた、出来立てで栄養バランスの取れた昼食を、園児と一緒に食べることで地域の方にも元気になってもらいたいという思いがこもった取り組みです。利用された方は延べ234名（令和7年9月末現在）。公民館での高齢者サロンの帰りや、近所の方がよく利用されています。散歩の途中で出会ったり、いろいろな活動を一緒にしてくれる地域の皆さんと食事をする事で、園児たちにとっても楽しいランチタイムとなっています。

Instagramには保育所レストランだけでなく、地域の方との交流の様子もアップされていますのでぜひご覧ください。

町内の子どもが減りこのままでは東仙道保育所と都茂保育所を継続することが難しくなると判断し、令和5年12月に美都福祉会は、暁ほほえみ福祉会と合併しました。地元の福祉会がなくなるのは残念なことです。地域で子どもを育てる保育所を存続させるための前向きなものです。これからも地域全体で保育所を応援していけたらと思います。



保育所レストランの様子



地域の方のお家でお芋掘り



東仙道保育所Instagram

都茂地区



「都茂の歴史を学ぶ」 //

令和6年11月、「全国山城サミット 益田大会」が開催され、全国から多くの方が益田を訪れました。大会では、城郭考古学者の千田 嘉博 教授と俳優で山城好きの石原 良純 氏によるシンポジウムが開催され、大会に花を添えました。市内では中世の街並みや神社仏閣、そして山城の七尾城跡などを紹介する現地説明会や市民によるおもてなしが行われました。

都茂地区では、この大会が盛り上がるきっかけになるよう、9月に益田市文化振興課による「美都の山城」と題した講演会を公民館で開催しました。また、丸茂自治会では10月に丸茂城跡へ登る「丸茂城跡アスレチックウォーク」が開催され、遠くは埼玉県からの参加もありました。急斜面を登り、山頂の本丸跡を目指し、記念写真に収まった参加者の姿は、山城を攻略した達成感で満ち溢れていました。

このような都茂の歴史を学ぶ場を継続していくために、令和7年度は年間7回の歴史講座を始めました。講座は、都茂の地名の移り変わりや都茂丸山鉾山、都茂に点在する4つの山城や神社仏閣、そして近年発掘調査された遺跡など盛り沢山の内容です。参加者と講師による意見交換もあり、有意義な時間になっています。また、山城の魅力が体験できる「第2回 丸茂城跡アスレチックウォーク」も計画しています。そして子どもたちにも都茂の歴史的魅力を知ってもらうため、都茂小学校の児童に都茂丸山鉾山に関する学習を行う予定です。子どもたちのふるさと自慢が、またひとつ増えるのではないかと思います。

大人から子どもまで、都茂の歴史が語り継がれ広められていくために、都茂の歴史を学ぶ場を継続して作っていかうと関係者一同頑張っています。



歴史講座



丸茂城跡アスレチックウォーク



県内外の人が集う泊まれる学校 ～ぬくもりの里 2,000 人達成！～

益田市立宿泊交流センター「ぬくもりの里」の宿泊者数が、早くも 2,000 人を達成しました。

記念すべき 2,000 人目は、大阪府堺市からお越しの中学生女子サッカーチーム〈SSL girls〉のみなさん。7 月 30 日の贈呈式では、美都産ゆずを使った特産品「ゆずっこ」と、ぬくもりの里の人気体験「石窯ピザづくり体験」の目録が贈られ、笑顔が広がりました。

ぬくもりの里は、平成 25 年に閉校した旧二川小学校を改修した『泊まれる学校』。校舎の面影を残す温かな空間で、スポーツ合宿や家族旅行、地域イベントなど、さまざまな交流が生まれています。

これまでに、県内はもとより、東京、神奈川、奈良、大阪、愛媛、広島、山口など全国各地から多くの方が宿泊。訪れる人と地域がつながり、再び訪れてくださる“ふるさとのような場所”として親しまれています。

これからも、訪れる人と地域をつなぐ ふるさとの交流拠点 として、美都の魅力を発信していきます。



記念写真



石窯ピザ作り体験

ふるさと会員募集中

「やっぱみとじゃろう」を
ご自宅へ郵送します！

～町外にお住まいのご家族やご友人に、ご入会をおすすめください～

益田市役所美都地域総務課が年 1 回発行している、ふるさと情報誌『やっぱみとじゃろう』は、美都地域の「人・できごと・行事」などのトピックスを中心に、ふるさとの今を取り上げ、町内全戸配布のほか、「ふるさと会員」に入会されている町出身者の方などにも郵送しています。

情報誌を通して“益田市美都”を懐かしく思い出したり、新たな魅力を発見したりしながら、お友達やご家族との会話の中で、また美都を知らない方との出会いの中で、「縁（ゆかり）」の輪が広がっていくことを願っています。

町外にお住まいのご家族やご友人などに、ぜひ「ふるさと会員」へのご入会をおすすめください。

入会は無料
通年募集
しています

お申し込みやご不明な点は、下記までお気軽に
お問い合わせください。

皆さまからの『やっぱみとじゃろう』へのご意見・
ご感想もお待ちしております。



バックナンバーは
◀こちらから

この機会にぜひご入会・ご紹介ください！

編集・発行
お問い合わせ

益田市役所 美都地域総務課

住 所／〒698-0203 島根県益田市美都町都茂 1803-1

T E L／0856-52-2311 F A X／0856-52-2190 メールアドレス／chiiki-m@city.masuda.lg.jp

